

令和7年度

不動中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「家庭学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組もうとする生徒の育成」
- ②「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができる生徒の育成」

校長

岩佐 隆義

学力向上推進員

河野 洋子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返り等、さまざまな機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--------------------------------------|--|---------|--|---|
| ○授業や朝の学習において、与えられた課題に対して、こつこつと真面目に取り組むことができる。 ●学習に対して受動的であり、分からないことをそのままにする傾向があり、定着につながっていない生徒がいる。 | ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着し、さらに活用することができる。 | ・生徒の知識・技能の定着状況を検証し、見直しを定期的に行う。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を設定し、定期テストで問題を出題する。 | | ・基礎基本定着週間を設け、朝学習と帰り学活を連動させ小テストなどを繰り返し行った。定期テストでの基本問題の正答率が少しずつ上がってきている。 | ・前時の復習や定着を図る小テストを実施する。 ・読書量や語彙力を増やすため、朝学習を充実させる。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|---------|--|---|
| ○授業ノートを真面目にとり、学習課題について、知識・技能を活用しようと前向きに取り組むことができる。 ●学習課題に対して、思考・判断し、筋道をたてて文章を書いたり、人に説明したりすることに苦手意識を持つ生徒が多い。 | ・語彙力を増やし、伝えたいことを適切に書いたり、話したりして相手にわかるように伝えることができる。 | ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を設定する。 ・授業での課題設定や学習形態、発問の仕方を工夫する。 ・コミュニケーション力を高める支援方法などの校内研修の充実を図る。 | | ・自分の考えや思いを発表できるようになってきたが、根拠を示して説明することには、まだまだ苦手意識がある。 | ・授業の中に自分で考えたり、意見を自分の言葉で述べたりする場面設定や発問の仕方を工夫する。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|---------|--|---|
| ○集団生活のルールを守って生活できる。朝学習に静かに取り組み、チャイムで授業を開始することができる。 ●生活習慣の乱れによる睡眠不足などから、授業に集中できない生徒や宿題等の提出物の締切が守れない生徒がいる。また、家庭学習において主体的・継続的に取り組めていない生徒がいる。 | ・学びを振り返り、不十分なところを理解することができる。 ・自ら課題を見つけ、主体的に家庭学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につける。 | ・テスト前後に生徒自ら学習を調整することができるようにテスト計画表を活用するなどの機会を設定する。 ・毎時間、振り返りの場面を設定する。 ・宿題の出し方を工夫し、教員間で情報を共有しながら個別に支援する。 ・ICTを有効的に活用する。 | | ・授業に対して関心・意欲を持って授業に取り組んでいる生徒が100%に達した。 ・テスト計画表を活用したり、プリントBOXのプリントで主体的に学習したりする生徒が見え始めた。 ・課題に対して、深く考えることができず、課題を提出して満足している生徒もいる。 | ・授業における振り返りの時間を充実させ、家庭学習の取組に繋がるようにする。 ・宿題の出し方や内容を工夫し、ICTを家庭学習でも積極的に活用する。 |